

石河光哉哉画伯編纂  
西歐宗教名畫集



4471

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 15 60 1 2 3 4 5

第五輯目次	
三位一體(三色版)	アルフレヒト、デュレル
豫言者エレミヤ	ミケランゼロ
エゼキエルの幻想(三色版)	ラファエル
洗者ヨハネを斬首す(三色版)	ビウビス、ドヴァンヌ
天聖者テヘ	エル、グレコ
天使者の肖像	エル、ケレコ
天使部分の肖像	フラ、アンゼリコ
天使の群像	ベノツツオ、コツツオリ
デュル自畫像	ルカス、クラナッハ
ルーテル。フレデリック三世。マランクトン	アルフレヒト、デュレル

大坂市南区堀長橋南詰

飯田十字發行

電話九四六六九番、番號替換版七八三二番

大正  
14.6.27  
内文

始







話題、豫言者エレミヤ

作者、ミケランゼロ。Michelangelo. (一四七五—一五六四)  
所在、ローマ。ワチカン。シスチンチアベル壁画。Sistine

224

**解説**、讀書者エレミヤの豫言は舊約聖書中、五十二章より成つて居る。他に宣歌五章がある。實に現代人に對しても最も最も深切な豫言である。

してその豫言はカルサレムが包囲されて被虐され、彼の落第をもくマダヤ捕縛される時に至るまで續いてある。彼は豫言中の豫言者であつた。

エレミヤの思想は大体に二セキエルと一致して居るが、靈魂の個人的覺醒の叫びはエレミヤに於て先覺されたのである。

エゼキエルが立法的豫言者、理のんであつたに對して、エレミヤは詩的豫言者、情熱の人であつた。前者は嚴肅なるに對し、後者は親切の人であつた。かく當時ユダヤの内と外にありて大いなる二つの叫びが飛げられてあつたことを想像せねばならぬ。我等は二者を對比してその眞實を察し得られるであらう。

して底は根が成る事も底は根じみは通じてお山側へしゆかに生むられたものであるが、然しながら彼の持説はエゼキエルの如く組織立つたる豫言をなせしに掛け、實に詩的明快

エホバの言葉に騙されて「エレミヤよ、汝何を見るや」といひし時、彼はたゞて「<sup>ハ</sup>丘<sup>カマツ</sup>の枝を見る」とこたへた。田原香はハブル語にて「醒むる」の意であると云ふ。現實に沈む我等も早春、白き花を見には卒然として成ものを直觀するものがある。ましてエレミヤは田原香の枝を見て、「驚<sup>ハ</sup>く」の神。精靈の中に常にまさるか給ふ」とな御神を見たと云ふことは明らかのことであつたらう。かくて實に於ては萬物し

きつたイスラエルの中に溜めた信仰が認められたのである。我には無事相も、鷦も、斑鳩も、燕も、雁も、豹も、駒鹿も、神の愛させむる詩題としてのみ活用されたのである。  
「天よこの事を翻け覆け、いたく悔れよとエホバいひたまふ、そは民はふたつの罪事をなせり」即ち活る水の源なる我をすて自から水道を  
離れり、すなはち離れたる水道にして水を有たざる者なり。(二章上一節)

エホバになれて人はさよい出るのである。たとへば「彼ナイルの水を飲まんてエジプトの路にあるは何故ぞ、また河の水を飲んとてアワスリヤの路にあるは何故ぞ、汝の恩は汝をさらしめ、汝の背は汝をせめん、斯く汝が汝の神エホバをしてたると我を畏る」とこの後の汝にあらざるとは、懲しく目つ苦きことなるを承見てしるべしと主なる万軍のエホバいひ給ふ。汝背より汝の懃をとり、汝の身を祓ちていひけるは、我つかふることをせじと、即ち汝すべての高山のうへと謂ての青木の下に彼女のごとく身をかがめたり……」三又「世にいへる

あり人もしその妻をいださんに去りゆき二ほかの人の妻となれば其夫ふたたび故に歸るべけんや、されば馬鹿はおほいに汚れざらんや、汝は多くの者と、眞理を行へり、されど汝われに歸れよとエおべいひ給ひ。汝目を開けてもろ（）の泰山をみよ、春遊を行なはざる所はいづこにあるや、汝は殊野にむるアラビヤ人の爲すがごとく路に樂し一人をまてり、汝は姦諂と罵をもて此境を汚せり、この故に晴はとぞめられ、春の雨はふらさりし、されど後日汝の體あれば肯じて恥ぢ十ニニ」と（三章一節以下）

かくエジミヤは自然に托して神の恩と開みを力強くイスラエルに率直に叫んだのであつた。しかして今や我等の魂に叫ぶのである。茲に引倒すべく枚舉にいとまがない。

キリストの最後の審判を描いたのである。モーゼはいまもゼンヨリの丘からヨーマを見下している。キリストの審判圖は今も全世界に對する警告である。

ひ込ませるまでに充分慣れている。がまはミケランゼロその人をより無賴に語つてゐるのである。

ミケランゼロは建築もやつた。プラトンの學會に耽溺した。しかしそれより以上に良心ある藝術家であつた。然り藝術家と云ふべくあまりに義人であつた。そのことは世にも感なる悲哀の人なる彼が晩年全くキリストの十字架の前にひれ伏したことによつて窺はれると思ふ。この一派な畫家によつてエレミヤが隕作されたことは當然のことで、冷靜な貿易ラファエロによりて立法的諷諭者ユゼギエルが描かれたこと

、對照して考へるべきである。  
シスチンチャペルの大壁画は目も離さないばかりの色彩をもつて描かれてあるが、コレミヤの肩から胸にかけての赤と緑の對照は五月の陽よりも強烈で、美しさ春の草花も及び難きものがある。

卷之三

A vertical black and white photograph showing a close-up of a textured surface, possibly a wall or rock formation, with a prominent vertical streak of light or smoke.

A black and white photograph of a man in a dark suit and tie, looking slightly to his left. The image is grainy and appears to be from an older film or print.

the first time in the history of the world, the whole of the human race has been gathered together in one place.

192  
The Journal of Neuroscience, November 1, 2006 • 26(44):1917–1926 • www.jneurosci.org

卷之三

A vertical black and white photograph showing a dense, dark forest scene. The upper portion is dominated by tall, thin trees, while the lower portion shows a mix of foliage and what appears to be a body of water or a clearing.

卷之三

卷之三



書題、エゼキエルの幻想

作者、ラファエル Raphael (一四八三—一五二〇)  
所在、フィレンツェ ピティ書廊 Firenze Pitti

點句、舊約以西結書一章。

聖句、舊約以西結書一章。

聖書 聖經以西結書一章

第三十一年四月の五日に我がハモ河の邊にてかの爐へうつされたる者の中にせりしに天ひらきて我神の異象を見たり、是大オムサ王の爐へ出かれしより第五年のその月の五日なりキリ時にカルダヤ人の地にケバニ河の邊にてエサバの官居所ブシの子エゼキエルニに臨めりエサバの手かしてて我の上にあり、我見しに視よ、想もき風大なる爐および燒ゆる火の兩塊北より出きたる又雲の周間に輝光ありその中よりして大の中より燒たる金族の如きもの出づ馬火の中に四脚の生物にて成る一面の形あり、其頭は是のことと即ち人の形あり、各四の脚あり、各四の翼あり、その足は直なる足その頭は犧牛の足の如きにして磨ける鋼のことと云ふれり、その生物の四方に翼の下に人の手あり、この四面の物皆面と謂あり、その翼はたがひに相つもなれり、その往々さきに回轉せしして各その面の向ふところに行く、その面の形は人の面のこととし、四角の者右には獅子の面あり、四角の者左には牛の面あり、又四角の者翼の面あり、その頭とその翼は上にて分るもの各角の翼二箇は板と相つらなり一面はその身を覆ふ骨頭その面の向ふところへ行き轍のゆかんとする方に行く又行くにまはるゝ事なし、中より輝光いづ、その生物旁りて輝光の如くに注來す、我生物を觀しに生物の近邊にあたりてその四面の面の前に地の上に輪あり、其輪の形と作は黄金色の玉のこととし、その圓鏡の形は皆同じその身と作は輪の中に輪のあるがことなり、その行く時は四方に行く、行くにまはることなし、その輪輻は高くして堪能しかり、輪五つは四面ともに皆輪く目あり、生物の行く時は輪その傍に行き生物傍をはなれて上る時は輪もまた上る、見て靈のゆかんとする所には生物その靈のゆかんとする方に群く輪をたその傍に上る、是生物の靈輪の中にあればなり。此の行く時は辰も仰き此の止る時は辰も止り此地をはなれて上る時は輪も共にあがる、是生物の靈輪の中にあればなり、生物の首の上に置しき水晶のこととき改折ありてその首の上に展開る、改折の下に其輪輻と開きて此と彼とあひ連る又各二箇の翼あり之の各の二箇の翼此方彼方よりて身をおはふ、我その行く時の羽聲を聞に大水の聲のことく全體者の聲のこととし其聲音の聲は軍勢の聲のこととし、その立どまる時は翼を垂る、首の上なる改折の上に寶玉のこととき寶珠の狀式あり、その寶珠の狀式の上に人のごとき者在す、又われその中で周間に磨きたる鋼のこととなる者を見る其人の腰より上も腰より下も火のことくに見ゆ其周間に輝光あり、その周間に輝光は雨の日の雲にあらはるゝ虹のこととし、エホバの榮光かくのことく見ゆ、我これを見て俯伏したるに謂る者多有あるを聞く。



卷之三十一

—八一四—八九八

石河光武書伯解說



(6)

題、聖者の肖像

作者、エル・グレコ El Greco (一五五〇—一六一四)

所在、スペイン・マドリード Madrid

解説、スペイン版の此画の題題は「聖ヨハネ」となり、著者としては「聖ヨハネ」の名

を以て記され、居た様であるが、或人は「没後ヨハネ」と言っている。日本版の著者には或「聖ヨハネ」の名實に違ひ、著者と表記を誤した他のダ・レコの作には常に聖ヨハネの頭部又脚が個性が息づいて居て、標準は時に問題にならぬものが多く、それに故に彼の特徴者は事實著者と認名されたものも極めて多くあるのである。

で我々は必ず最も古く最も優れた聖ヨハネとして評價する以上に、その前面上の脚も永遠の姿がいかに深く、其繪に於て表現されておるかを觀賞する大いに機會としたいのである。

我々は聖ヨハネを教し、キリストの福音の傳道をして因縁したのである。

彼は最優れた人と呼ぶことも出来り、既に猶太人とは神と併に聖なる人のことである。この神を捨てられた彼は、たゞ新約全書

を湯けぬ程の如く、たゞ神の義を追ひ求める人であつて、かゝる人は天國を有する者である。イエスが仰せられた。

故に彼は聖ヨハネと呼ばれる。それは聖潔にして潔められた魂であるからである。

彼は本山田の人である。それは聖の聖なる處に附ねたのである。

彼の前に立つて居る人、さうして彼の脇に坐す人生にさよを處の聖者である。彼は聖書に立ちた頭で、あらゆる過失の問題を引き

来る人を洗濯する所にも思ひ、もとより聖ヨハネとも思ひ、一切には神と聖なる愛を發揮する聖者と叶ふも、不自然ではないである

う。

實に十七世紀のダ・レコはルネサンス最後の大立物であつて、天にまで高められた聖ヨハネであつたと云ふ。彼の伟く人物は胸の中に示る頭

を持てている。恐らくダ・レコ自身、かゝる人ではなかつたらぬ。彼が當時ヨハネのタレト馬からイタリーの「美術」に覆り、其處で學んで、到々スペインの宗教の藝術と接觸の地を求めた際、今モレードの風を甚しく影響につゝまれてゐるが、ダ・レコはこの直感を發したと思ふ。彼の頭の前にはモレードの聖後生誕事に保存する美術館の様なものである。其處に彼の寫したトレド金の風景画がある。聖ヨハネの頭の前にはモレードの聖後生誕事に保存する美術館の様なものである。其處に彼の写したトレド金の風景画がある。

一日の中に我々はモレードの町を廻り、そこで得られた現の幸運感に打たれぬであら。

次に首府マドリードのアラバ山脈の山上に行かねばならぬ。人々はパリから百路のマドリードまで通ヨハネを見に行つても惜しくないよ思ふに相違なし。

英國のカントン、ガラフ、セーヴィーのアルスデンやスワンベーン、カラリの間にダ・レコの作に接するつて出来る事に心を惹かれて、我等の喜びは更りなら。

藝術は普遍であると云ふが、しかし芸術家が生身を共處に置いた時に於て、それは又二國の生命に寄與したのである。ヨハネも、モレードも、

も他に特徴的ではない。たゞ我々は勿段と云ふ時機によつてその對に遇るだけであるだらう。

(行書信字十田版)





石河光 舞臺油絵館

(3) 畫題、天使部分畫

作者、フラ・アンゼリコ。Fra Angelico (一三八七—一四五五)  
所在、フィレンツェ・サン・マルコ美術館。S. marco Firenze.

解説、マッテオ・アンゼリコは、シニョーラ派の初期繪師の上では、キリスト教最後の画家となつて居る。出来ヨルトナ、ファイエッレの田舎者たちの後は別に誰がなかったが、無論ヨットオ始める最後の中世纪の作家に成化を受けて、その風にはビザンチン風が多分に遺つてゐる。  
彼の繪の特徴は、天性的の柔和が、主イエスに従ふ者達に因て、その表現の上に大上のと安直の氣質を遺してゐる點にある。是も、彼は折りの重複と云はれる通り、サン・マルコ院の祭壇には十数の十字架上のイエスが描かれているが、その赤い血のしたる十字架を涙ながらに描いて、其處には平和を學んだのである。彼はその生涯をルネサンス精神を含みながらも、前者的な、しかし帝政的な時代の後襲のあとの半世紀は、當時によく似たる「貴族的」の氣質である。マッテオ・アンゼリコは、その生れをルネサンス精神を含みながらも、前者的な、しかし帝政的な時代の後襲のあとの半世紀は、當時によく似たる「貴族的」の氣質である。マッテオ・アンゼリコは、第四種の代表作である「聖母子」は、第四種の代表作である。この後部の聖母マリアの頭冠の中右方に盛りものである。全幅はさまで大きくなり、複数で見た丈では原画の感とど味ふことは困難である。且つ金色を多量に使用してある爲め金細工風で神妙の繪の氣味が薄い。これだけ可愛らしい氣持は頗しく出ている。これにアンゼリコの特色は、透明な青、無い青、墨のやうに青黃等で深められている。

著者名はギリス教最後の画家と云はれるは、身を僧職に因けるものゝ、画家としての修業であると云ふ意であると思ふ。

美術史上に於て僧職に非ざる平和者の天使画は、モダニズムやデュラレ・エクセル等現はれて居る以上、彼のタリヌアント・ペインターはルネサンス以後と雖も存在する或る重要な伝統を藝術の上に遺していくことを望む所はなる。

(行燈前室十斗板)

## 畫題、天使の群

作者、ベノツツオ、ゴツツオリ。Benzoco Grotto. (一四一〇—一四九七)  
所在、フィレンツエ。バラツツオ、メティチ。Palazzo Medici.

解説、ゴツツオはラ・アンゼリコに師事し、その作風の感化を受けたが後作風が變つてゐる。

十五世紀の特色とする物語り風な表現を慣用するのが彼の特徴であった。しかしるに彼は才とへ聖書の場面をも實は當時のイタリーの日常生活の姿を表はした。美術史家がよく引かによく有名なるビザのカランチャに於ける二十世紀の「アバの聖母」及び「モアの女性」等は前作書に題材をとりながら、當時のタリートの藝術風俗を以て巧みに表現して居るが如きである。それ丈時代は現實的、寫實的の傾向を帶びて來たのである。

今と天主の群像、アンゼリコの「天使の外画」を比較するならば其處に大いなる相異を見出すであらう。勿論その人の個性、品格にも出でれども、いかにもこの天使群はシナギ鬼ひのである。

背景の様子から草木の飄然としたヨコの如き精緻的でなく餘程重複に誰かの眞實に描いたと云ふ風がある。従つて不純でのんで

り、カランチャは自らの信仰で聖母絃歌を歌つたかも知れぬのに似して、ゴツツオはメティチ家の依頼に依りてこの壁画を描いたのであるから、企圖の上にも餘程現直風な注文があつたに相違ない。

何れに於けるゴツツオはアンゼリコの如き神聖画ではなく、天使をもの地上に引きさへねばならなかつた。故に自ら天使も神格化され

たのかカランチャの聖母に比すればやゝあるは云々へ出来らしい注意の眞實が畫面にあふれてゐる。

ゴツツオの繪が現代の日本画家の習者に喜ばれたと云ふ事はさもあり難なことである。

（行書楷字十斗版）





石川光毅著書解説

スチーブンは、改修工事の際に、改修工事の担当者である、山人、人物であった。

これが出来ば、まことに、アーヴィングの「アーヴィングの死」へ。

**解説**、頭蓋の人に、隼の頭蓋は聞く。やめえ。タラナマハの名を指す。大人の見る頭蓋にはタラナマハはかくやアレヌモ

作著「ルカス・クリナッヒ」 Lucas Cranach. (一四七十一五五九) 所在、ムンスター美術館 Altes Museum. K. Cl. Punktliste.



終